



Asia Pacific Brethren Conference on Missionary

APBCM2006



E G G P L A N T

エッグプラント
Nファミリー
ホームスクール通信
2006.9.1
No.26



映画の場面
実際の堀
きちんと日本語
で看板が!!!



手遅れになる前に



食卓の足が折れるほど
料理を載せるのが韓流

私たちと同じ信仰を持ち、親しく交わっているアジア・オセアニアのクリスチャンたちが韓国に集まって大会を開きました。アメリカと香港からゲストスピーカーを招いたり、韓国からアジア諸国に遣わされている宣教師たちの報告を聞いたりすることができました。

個人的には大学時代に韓国に一度行ったことがあり二十数年ぶりの訪問となりましたが、韓国は今も熱かったです！全人口の二十五%がクリスチャンということもあって、どんな田舎に言っても大きな教会があちこちに建っています。物質的に繁栄し若者たちに締めがなくなってきたと言いますが、日本に比べれば雲泥の差です。国全体がキムチパワーで満ちているという感じでした。

大会直前に特別に宣教師たちの話を聞いたのですが、その集会の前に七十歳を過ぎた老人が日本語で歌を歌わせて欲しいと言われるのです。早速していただくと、それは小学校五年まで習った日本語を使って「夕焼け小焼け」を歌い、最後の歌詞



ジム・マッカーシー(米)

を「イエスさまと一緒に帰りましょう。」と替え歌まで披露してくれました。もちろん戦時中日本が韓国を併合して日本語学習を強要された本「終戦記念日」。韓国で言えば「光復節」で、日本帝国から開放されたことを祝う日でした。歴史の重みとキリストにあって完全に赦し、日本人を愛する韓国クリスチャンの力の源泉を見せられた一場面でした。

(K)



春川集会

温風ヒーターの製造ミス、整備ミス問題がひと段落したかと思えば、今度はガス瞬間湯沸かし器やシンレッターでの事故である。一般的にこのような事故で一人が死亡したとき、その背後に似たような事故で一〇人入院、六二〇〇人外来に通院、その下に数万の同様な事故があると言われます。この数万の事故を教訓に解決策を見つけるのが有効なのですが、現実には程遠いのです。責任回避、保身、隠蔽に走り、正直さを失うことによつてさらに大きな悲劇を生んでしまいます。オーストラリア、ピクトリア州では、子どものけがの原因がデータベース化され、その対策によつて未然に事故を防いでいるというのですが…。

聖書は、人間の愚行・失敗のデータベースと言えるでしょう。紀元前三五〇〇年から一六〇〇年に渡り、人間というものを冷静に見つめ、ありのままの姿を赤裸々に表しています。人間のメーカー（英語の the maker とは創造主のこと）を無視したとき、どのような状態に陥るかを語りながら、同時に創造主からの解決方法を提示しているのです。悲劇的な故障の前に聖書を手にとつてみられませんか。劇的な回復がそこにあります。

「こんなことになりました！」 行事報告

八月

- 三日～五日 チア・サマーキャンプ(仙台)
 四～五日 日曜学校キャンプ(服部緑地)
 九日～十二日 バイブルキャンプ(海洋センター)
 十日～十二日 下関帰省
 十六日 天文台研究員さんが訪問
 十七日 AちゃんRちゃんお泊まり
 十八日 「キッズユース・ファイヤーイベント」
 阿倍野防災センター
 二十一日 ビッグバン
 二十三日～二十五日 ドキドキ子ども自然史ウォッチング
 「学芸員体験コース」
 二十八日 西はりま天文台研究員さんが訪問(二回目)



Mの読書コーナー

「ドレイブンの眼」

ステイブン・キング著

ドレイブンの若き王子ピーターは魔術師フラッグの策略により、父ローランド王殺しの濡れ衣を着せられ、針の塔の頂上に監禁されてしまう。ピーターの弟であるトマス王子は、魔術師フラッグによるローランド王の殺害現場を、かつてローランド王が倒したドラゴンの剥製にされた眼を通して目撃したものの、魔術師フラッグの言いなりになってしまい、王位を継承することになる。果たしてピーター王子は、針の塔から脱出し、魔術師フラッグの悪行を暴くことが出来るのか。

読み出すとまらない、手に汗をにぎる冒険ファンタジー。ぜひ読んでください。

チア・サマーキャンプ

H

仙台までのバスを出してほしいという我が家の願いが聞かれ、二〇〇六年のサマーキャンプに参加することができました。大阪から仙台まで十二時間かかりましたが、そのバスの中で関西グループが一致団結し、大いに盛り上がり、あつという間にすぎました。私達は早く着いたので外の遊具で遊んでいました。着いた時、あまりにも広いので圧倒されました。運動場の周りはきちんと手入れされた芝生が生えていて、とても美しかったです。

私はこのキャンプで一番すごいと思ったのはスタッフの方の働きぶりです。私が五時ぐらいに目を覚ますと、もうすでにそうじされていました。こんなに早くからすごいと思いました。他にも海水浴に行くとき私たちより先に行き、準備を



しててくださいました。このキャンプは多くの祈りとスタッフにささえられ一日一日が充実してすごせました。

総勢三二〇人ほどで集合写真を撮りました。

編集後記

今年もまた、あつという間に過ぎた夏休み。ホームスクーラーとしての夏休みの過ごし方も板についたようです。今回の休みは全体で動くことはほとんどありませんでした。

原爆資料館を見学して

N

私は、下関に帰省する前に、広島原爆ドームに行きました。夏休みなので親子連れなどいっぱいの方がいました。原爆資料館を全部見終わるには約3時間もかかるそうです。

広島に原爆が落とされたのは一九四五年八月六日午前八時十五分だったそうです。多くの展示物があり、見ているとすごく怖くなりました。

原子爆弾はものすごく熱くて、釘がとけるよりもさらに熱かったそうです。とてもびびくりしました。爆風で窓ガラスがタンスにささっている展示もありました。タンスにささっているぐらいだから人の体にもガラスがささっていると書いていました。

ボランティアの人たちもいて、いろいろ教えてもらいました。爆弾で変形してしまったものがとてもいっぱいありました。お皿や絵の具工場から出てきた絵の具を入れるビン、それに変形してしまったつめやひふもありました。

戦争の恐ろしさを少しだけ知ることができました。行ってない人は、一度いって見たらと強く思いました。